議案審議で討論

定例会最終日、平成30年度当初予算案と関連する議案に対し、反対及び賛成の討論がそれぞれありました。その内容を要約して掲載します。

平成30年度音更町介護保険特別会計予算及び関連議案

反対　保険料引上げ反対

守屋いつ子 議員（日本共産党）

安倍政権の、社会保障削減のシビアな給付抑制と負担増が行われているのが、介護保険制度である。

町は、第7期（平成30～32年度）第1号被保険者の介護保険料を基準額で月額250円引き上げ5100円と提示。音更町は、第1期保険料は2800円でスタートし第7期で5100円、約182％の引き上げ。町は、12の所得段階に細分化し保険料を設定しているが、無収入でも保険料負担があり、非課税の方でも、課税の家族と同居なら高くなる。3年ごとの保険料引き上げは、年金引き下げが続く中、年金生活者にとっては死活問題。町は軽減策拡充や一般会計からの繰入れなどの努力をすべき。引上げはすべきでない。

議案第29号の、介護施設などにおいて、身体拘束の対策を強化する条例の一部改正では、まずは身体拘束をくい止めるための人員配置などの改善策が必要。規則だけを強化しても、拘束を容認するものとなる。賛成はできない。

賛成　不当な拘束防ぐ条例

久野 由美 議員（公明党）

介護保険制度の見直しは、世代間・世代内の公平性を確保しつつ、制度の持続可能性を高める観点から、介護保険料率の改定がなされるもの。この度の介護保険料率改定も、介護保険事業等運営協議会の審議、答申を経たものであり、介護保険準備金から1億7500万円の取り崩しを行ったものである。保険料率抑制に努めている。40歳から64歳までの第2号被保険者は、負担の1ポイント引き下げが行われる。また、介護福祉士の処遇改善に使われる点からみても、必要な条例改正と判断する。

議案第29号は、反対理由とされている身体的拘束について、介護施設で高齢者への不当な身体的拘束を防ぐための規制強化である。日本で身体的拘束は、本人や周りが危険である場合やほかに手段がない時、一時的に限って認められている。しかし、音更町では日常的に身体的拘束が行われている事実はない。不当な身体的拘束や虐待を無くすための条例改正である。

平成30年度予算及び関連議案

賛成　子育て支援を評価

松浦 波雄 議員（公正クラブ）

平成30年度予算総額は、平成29年度比0・1％増の332億4231万円となった。一見大型と見える予算だが、高齢人口の増加に伴う義務的経費が多く、政策によって自由に使える余地は限られる。この厳しい条件の中、住民税課税世帯小中学生の入院などの医療費無償化、町独自の保育料軽減、スマホ世代の母親に対応した電子母子健康手帳の導入、入学準備金の入学年度開始前支給など子育て支援対策が充実。経済対策では、魅力発信エリア構想の実現に向け、先手を打った周辺道路の整備、十勝が丘公園再整備事業、空き家を活用する短期移住体験事業、そして農業者を守る大豆産地活性化対策事業など、細部にわたって目配りされた予算と思う。これは町が町民各層との膝を交えたタウンミーティングの意見を汲み上げた成果と評価する。町民が住んでよかった、これからも住み続けたいと実感できるよう「みんなでまちづくり」を期待し、賛成討論とする。

議案に対する議員の賛否一覧表　○=賛成　×=反対　欠=欠席　※議長は表決に参加しないため空欄

議案 ＼ 氏名	大野 晴美	方川 克明	山川 光雄	堀江 美夫	大浦 正志	神長 基子	重堂 登	守屋いつ子	加藤 治夫	平山 隆	坂本 夏樹	榎本 基	久野 由美	松浦 波雄	鴨川 清助	山本 忠淑	宮村 哲	上野 美幸	髙瀬 博文	佐藤 和也（議長）
議案第4号 平成30年度音更町介護保険特別会計予算	○	○	○	○	×	×	欠	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	―
議案第27号 音更町介護保険等の実施に関する条例の一部を改正する条例案																				
議案第29号 音更町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法の基準に関する条例等の一部を改正する条例案																				